



質問および答弁(要旨)

18年度の予算編成(水曜日)

問 三位一体改革や社会経済環境などを考慮する中で、だれもが住んでみたい、行ってみたいと思えるまち「ふるさと福山」の新たな創造のため、教育、環境、協働、行革、活力、福祉、安心・安全をキーワードとし、市長のカラーをアピールした新年度の予算編成としては。

答 新年度予算は、歳出全般の徹底した見直しを図り、駅周辺整備や(仮称)中央図書館を中心とした中央公園地区整備、(仮称)西部市民センター建設などの都市基盤整備、保育所・幼稚園の再整備や小・中学校の教育環境整備など、「ふるさと福山」の新たな創造に向け、積極的に取り組んでいく。また、合併設計画の着実な実施で、地域全体のレベルアップを図っていく。

◆関連質問

- ・18年度予算編成について (公明党)
- ・新年度予算編成方針と国の三位一体改革の影響は (市民連合)

芦品広域農道(市民連合)

問

1997年に全線供用開始となった芦品広域農道は、2002年の調査で1日8000台を超える交通量が、今では1万台を超えると推察されるが、ひび割れなど傷みもひどい。北部地域の交通の要衝として住民要望も強く、市道への移管も視野に、改修の年次計画を示すべきでは。

答 芦品広域農道は、生活圏の広域化などから交通量が増大してきており、それに伴い至るところで破損が生じている。これまで局部的に応急対応を行ってきたが、舗装面のひび割れなどが拡大し、維持管理に苦慮している。原因は、舗装の構成が農道としての設計基準であり、予想



芦品広域農道

第四次総合計画の策定(新政クラブ)

問

総合計画策定に当たり①市民ニーズをどう反映していくのか。

②数値目標を設定した計画を立てることが重要と考えるが。

③第三次総合計画の評価と、その中で策定しているリーディングプロジェクト21の達成状況はどうか。

答 ①市民ニーズの把握については、市民アンケート調査や、今後基本構想素案の段階でパブリックコメントを求めたり、審議会委員の市民公募もし、参画を求めていきたい。

②数値目標の設定については、分野ごとにできるだけ目標を設け、分かりやすい計画書にしたい。

③第三次総合計画ならびにリーディングプロジェクト21の達成状況は、一部継続中の事業もあるが、おおむね計画に沿った施策展開が

できていると考える。

◆関連質問

- ・第四次総合計画策定に向けた基本的な考え方 (水曜会)
- ・市民参画の方法について (緑風会)
- ・第四次総合計画策定のための基礎調査について (公明党)
- ・第四次総合計画の骨格・基本方針について (市民連合)

協働のまちづくり(水曜日)

問

市民と行政が協働し、市民が主体となったまちづくりを進めるには、政策形成過程での市民参加が必要では。

また、まちづくり基金の全体像と、提案型事業の審査の公平性について、市としての考え方は。

答

政策形成過程からの市民参加については、まちづくり指針策定懇談会の中で意見も頂いており、まちづくりに関する積極的な市民

